

平川市の持続可能な高齢者福祉・介護体制の実現に向けて

～ 必要な介護・福祉サービスを、必要な市民に、将来にわたって届けるために ～

背景（社会の動向）



- ▶ 人口減少と高齢化の同時進行
- ▶ 介護を担う生産年齢人口の減少
- ▶ 高齢者を地域でどう支えるかが大きな課題

平川市の現状・課題

（現場の声から）

- 1 訪問介護の人材不足
- 2 訪問介護の経営上の課題（赤字・新規受入困難）
- 3 通院介助の負担と地域格差
- 4 地域における見守りの担い手不足
- 5 制度の狭間への対応の増加（生活困窮・身寄りのない方など）

将来の見通し

生産年齢人口
の減少

介護ニーズ
の増加



現場の声（社会福祉協議会との意見交換会より）

訪問介護の
求人をしてもらっても応募が少ない。
退職者の再雇用で
対応している。



訪問介護は赤字で、
他の事業の収支で補填
しながら維持している。



弘前の医療機関への
通院介助に半日程度
かかることもある。
待機時間が報酬に反映
されにくい。



地域の見守りの
担い手が不足している。



生活困窮や
身寄りのない方への
対応が増えている。



第9期計画の
検証

課題を
第10期計画に
つなげる

今後求められる視点

需要の視点

どれだけの
介護サービスが
必要になるか



供給体制の視点

誰が、どのように
サービスを提供し続けるのか



重要な論点

介護人材・事業所の維持確保、
利用者負担の公平性と事業者の経営安定の両立

取り組むべき方向性（第10期計画に向けて）

介護人材の確保・定着

- 資格取得支援
- 就職・定着支援
- 若年層への啓発
- 外国人材・ICTの活用 など

介護事業所の経営支援

- 経営実態の把握
- 市独自の支援策の検討
- 適切な介護報酬の働きかけ

通院介助の支援

- 実態把握（移動・待機時間等）
- 市独自の支援策の検討
- 県・津軽圏域との広域的な連携・協議

地域の支え合いの強化

- 見守りの担い手の確保
- 制度の狭間への対応
- 多様な社会資源の活用

目指す姿

必要な介護・福祉サービスを、
必要な市民に、将来にわたって届けられる体制

誰もが
住み慣れた地域で
安心して
暮らし続けられる
まち 平川市

